



# 日本茶 品種とこだわり

## 日本茶の品種は多様

○茶は嗜好品  
→ 消費者の幅広い嗜好やその変遷に対応

○目標とされた主要な特性(消費者に対応して)  
→ 様々な種類の茶種に適した品種  
→ 各地域の環境に適した品種  
→ 優れた味の品種  
→ 香りに特徴のある品種  
→ 機能性に特化した品種

⇒ 時代の要請に対応した品種



## 茶の品種改良は 150年前から始まった

第1期 個体選抜時代  
明治初年～明治30年終期

早晩性に着目した選抜

第2期 分離育種時代  
明治30年代終期～昭和初期

栄養繁殖を前提に在来園から優良品種の選抜  
・'やぶきた'の育成

第3期 交雑育種初期時代  
昭和初期～昭和40年代

交雑育種の芽生え

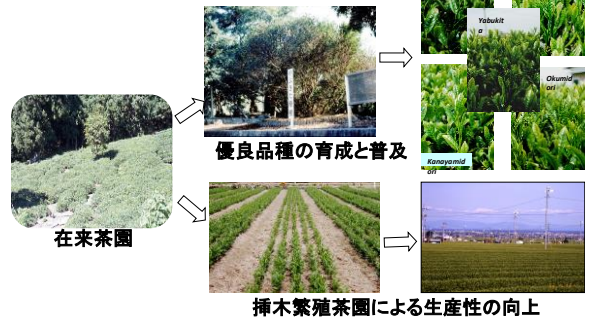
・紅茶用品種の育成  
・'やぶきた'を片親に交雑

第4期 交雑育種時代  
昭和50年代～現在

・高品質、多収性、ストレス耐性品種の育成



## 品種茶が現在の茶業の礎を築いた

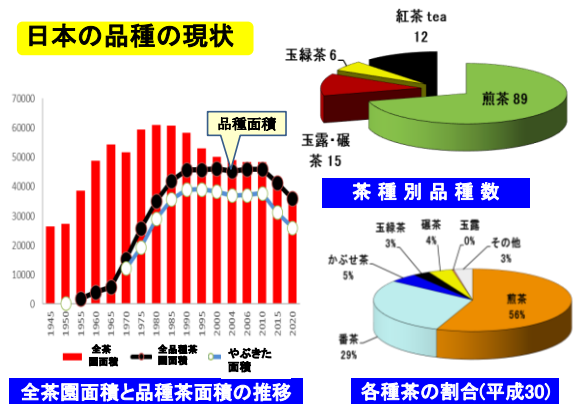


実生による在来茶園から優良品種の育成と挿木による栄養繁殖茶園にすることで収量性・品質の向上が果たされた

## 品種は時代の要請に応じて育成されてきた

奨励品種選定の時代的推移			
年代	時代背景	選定の目的	選定品種
昭10年代	輸出の拡充強化	栄養系品種の増殖による多収性、高品質化	やぶきた、こやし、ろくろ等
昭30年代前半	輸出再興、国内需要へ移行	紅茶用品種の採用	べにほまれ、からべに、ただにしき
昭30年代後半	景気高騰、洋食化	洋食に対応した品種の採用	ふじみどり、べにふじ、はつもみじ
昭40年代	国内需要の急増、製茶機械の大型化	多収性、早晩性品種、高品質化	くらすわ、かなやみどり、おおいわせ
昭50、60年代	需要の硬直化、凍霜害の多発	耐寒性品種の採用	さやまかおり、おおくひかり
平成時代	バブルの崩壊、多様化	香味に特徴ある品種の採用	香駿、つゆひかり

## 日本の品種の現状

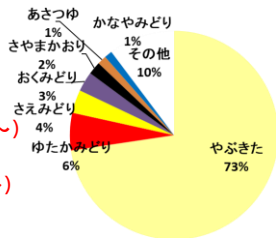


## 品種とは

### 品種の登録上の分類

- ① 種苗法の登録品種(1978～)  
育成者の権利保護
- ② 農林認定品種(茶:1953～)  
国等の育成、優良品種
- ③ 府県育成品種  
府県で育成

※最近では、農林登録品種、  
府県育成品種も種苗法  
に登録している



育成者	品種数
国	35
府県	68
民間	25
計	128

## 各地域における戦略品種

### 静岡県内の各産地における戦略品種への取り組み

市町名	推進組織	品種名(商品名)	特徴、取組等
静岡市清水区	清水お茶のまちづくり実行委員会	静7132(まちこ)	桜葉の香りが特徴。関係者と消費者が一体化。まちこクラブで消費者を取り込む
藤枝市	藤枝市茶振興協議会	藤かおり(藤枝かおり)	花様の香りが特徴。ペットボトル茶を19年販売
川根本町	川根本町茶業推進協議会	おくひかり	天空の茶産地形成。釜炒り茶にも挑戦
御前崎市	御前崎つゆひかり普及会	つゆひかり	市茶商、JA、行政が一体化。生産量の半分はドリップ茶で販売

## ソフトで爽やかさが売り 天空の郷

### 「おくひかり」川根本町

天空の茶産地 久保尾地域の散策地図



「天空の茶産地「典光」として川根茶全体のマーケティング戦略の機軸として位置付け、川根茶産地の振興と活性化を図る。

品種を活用して  
山間地を  
天空の郷に！

## エメラルドグリーンで旨味が強い 新品種

### 「つゆひかり」～御前崎市～



新しい時代の緑茶を  
どうぞ。

市茶商、JA、行政が  
一体となり、つゆひ  
かりを普及



ドリップ式 つゆひかり



2010.4.25 10時 5.9mm

## 桜葉の香りの みんなのお茶

### 「まちこ」静岡市清水区

桜葉の香りを前面に出し、清水みんなのお茶を創る会。まちこクラブで消費者の取り込み



## ジャスミンの香り 女性に人気「藤枝かおり」藤枝市

藤枝から生まれた新品種  
**藤枝かおり**

花のやさしい香り  
やわらかい黄金色  
深く喉を滑らす味わい

萎凋により花葉の香りを強化

RTDも女性に人気

花葉の香りを前面に出し、香りの藤枝茶をPRするためにブランド化。RTDも人気商品

## 香り豊かな 印雑131



<http://shinjuan.shop-pro.jp/?pid=120457599>

天竜 龍川 印雑131

この系統は150年前にインドから導入した実生からの選抜。非常に強い荒々しいまでの東洋風の香気に満ちたものになるが寒さに弱く栽培地域は限定される。印雑131を片親に香気に特徴ある品種がいくつか誕生している。



サンプルの香りはパンチの利いた東洋風の香り。非常に力強く、日本の一般的な食事に良く似合う。味は少し重たいが、底力を感じさせるものである。

## 旨味と覆い香の「やまかい」



天竜 佐久間 やまかい

「やまかい」は「やぶきた」実生から選抜され、1967年に静岡県が奨励品種としたもの。「やまかい」は、強い旨味と被覆香を感じ、山間地で生産されると優れた特性のあることから山峡でやまかいと読ませるほどである。



このお茶を口元の運んだ途端に、玉露風の覆い香が鼻につき、口に含むとほど良い渋みの奥にメロン風味が残る。特徴的なお茶である

## 爽やかな花香の香駿



静岡市本山  
内牧  
香駿

香駿は「くらさわ」と「かなやみどり」を両親とし、1996年に育成された品種。香駿は駿河の香りのとおり爽やかな味と強い花の香りが特徴。日本の品種の中でも特徴的な香りで、通にはファンも多い。

本サンプルは柔らかで乳飲み子のような新芽の香りとともにジャスミン用の花香が愉しめます。まずは一口口に含み、香駿特有の香りと爽やかな味を感じてみてください

## 品種が替わる要因

- ① 社会・経済的ニーズの変化
- ② 需要ニーズの変化
- ③ 新品種の登場
- ④ 生産様式の変化
- ⑤ 生産環境の変化



生産振興に寄与する品種

需要に応えられる品種

新しい時代を切り拓く品種

